

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 62人

② 算数 62人

5 留意事項

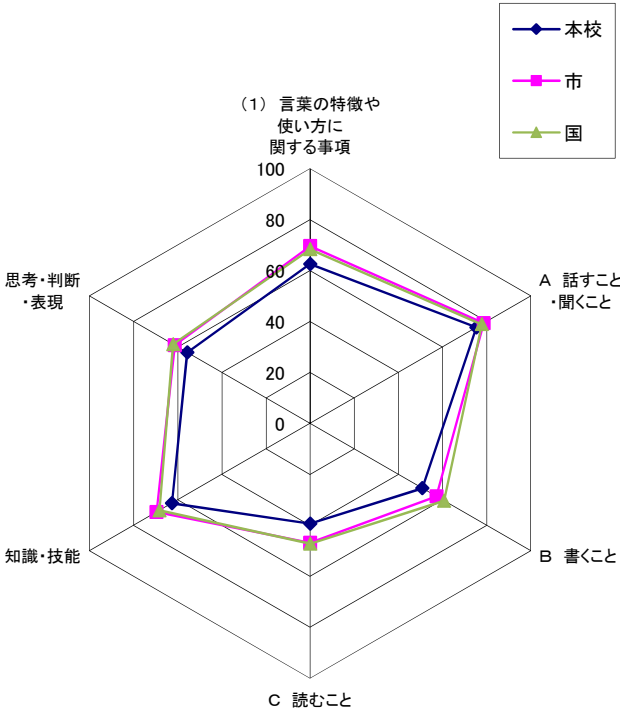
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.6	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.4	78.7	77.8
	B 書くこと	50.8	57.3	60.7
	C 読むこと	39.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	62.6	69.6	68.3
	思考・判断・表現	55.7	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

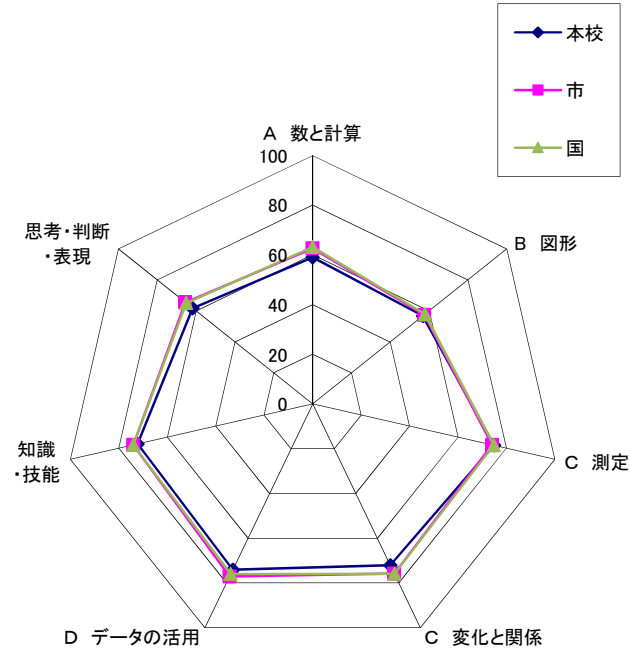
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は全国平均を下回った。 ○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題では、全国平均を上回った。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題では、すべての設問で全国の前正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「わくわく漢字チャレンジ」の機会を生かし、漢字テストへの目標をもった準備を促したり、既習の漢字を練習する機会を設定したりする。練習の際には、様々な読み方を意識した熟語で練習する。 ・ノートの記入や作文・日記を書く際にも正しい漢字の使用を徹底させ、漢字辞典・国語辞典の活用を促す。
A 話すこと・聞くこと	●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える設問では、全国の前正答率を下回った。 ●目的や意図に応じ、資料を使って話す設問では、全国の前正答率を下回った。	・毎朝のスピーチの時間を活用し、話の内容を事前に考えるなど構成を考えさせるようにする。 ・資料の示す内容を正しく読み取れていない部分が見られるため、他教科と関連させながら、資料を読み取る機会を多く設定する。 ・いつ、どこで、だれが、何を、どうした、のような文章の基本構造を改めて確認する機会を設定し、資料から読み取った情報を正しく話せるようにする。
B 書くこと	●目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問では、全国の前正答率を大きく下回り、無回答率は上回った。	・日記指導の機会を活用し、自分の考えを正しく伝えられるよう、整った文型で書くことを指導する。また、題材を工夫することで、書くことそのものへの苦手意識を軽減させる。 ・他教科においても図表などを活用し、その中から読み取れることをノートに書かせるようにする。
C 読むこと	●文章全体の構成を捉え、内容の中心の事柄を把握する設問では、全国の前正答率を大きく下回った。 ●目的に応じ、文章と図表を結び付ける設問では、全国の前正答率を11.4ポイント下回った。	・文中の大切な事柄に線を引かせたり、文のつながりを考えさせたりしながら、内容を正確に読み取れるように指導する。 ・場面ごとの要約を書く活動を設定したり、日常会話や日記指導の際に、出来事を端的にまとめることを意識させた指導を繰り返したりする。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	59.0	62.6	63.1
	B 図形	56.8	57.5	57.9
	C 測定	74.9	74.1	74.8
	C 変化と関係	72.1	75.8	75.9
	D データの活用	74.1	77.1	76.0
観点	知識・技能	72.3	74.1	74.1
	思考・判断・表現	61.8	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算する問題では、正答率が市の平均と比べて、上回った。 ●小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合を適用して、比較量を求める問題では、全国の正答率を大きく下回った。	・類似問題から、数値や場面を変えても同じような関係が成立するのか考えたり、理由を説明したりする活動を取り入れ、言葉や式で表現できるように指導する。
B 図形	○同じ面積のものを組み合わせてできる違う形の図形の面積を求める問題では、全国の正答率を4.5ポイント上回った。 ●複数の図形を組み合わせた平行四辺形について図形の構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を考え、面積の求め方を記述する問題では、全国の正答率を、下回った。	・複数の図形を組み合わせた形から、その図形を構成する要素などを見つけ、既習した語句を使ったり、示されている数値を使い立式したりできるように指導する。
C 測定	○条件に合う時刻を求める問題では、全国の正答率を上回った。 ●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、答えを導き出す問題では、下回った。	・数値を確認し、それが何を表しているのか記述させるようにする。 ・朝の学習や家庭学習などで今後も繰り返し学習を行い、基礎的な力を身に付けさせる。
C 変化と関係	●速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題では全国の正答率を下回った。	・実生活の中で、時速や道のり、時間などを求める機会を設け、知識の定着を図る。
D データの活用	○集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断する問題では、全国の正答率を上回った。 ●データの二次元の表に分類整理する問題では、全国の正答率を大きく下回った。	・データの活用ができる教材から、分類や整理を根拠をもって行えるように考えを書かせたり、発言させたりする機会を設ける。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に肯定的な回答をした児童の割合は93.4%で、全国の割合の76.9%を16.5ポイントも上回った。また、「将来の夢や目標をもっていますか」の肯定的回答率は全国の肯定的回答率を上回った。夢いっぱいプロジェクトとして、自分に合った身近な目標を立て、達成するための取組を検討し、達成した充実感を味わうというプロセスを繰り返し経験したことや、達成したことを教員や児童同士で認め合ってきた成果だと考えられる。今度も活動を継続し、児童を認め励ます機会としていきたい。

○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に肯定的な回答をした児童の割合が73.8%で、全国の52.4%を21.4ポイント上回っている。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に肯定的に回答した児童の割合が70.5%で、全国の58.1%を12.4ポイント上回っている。芋掘り体験や学校祭などで地域の方々と積極的に関わる機会があり、地域の一員としての意識の向上がうかがえる。

○国語、算数それぞれの「大切だと思いますか」という質問への肯定的回答率が高く、国語で3.5ポイント、算数で4.5ポイント、全国の肯定的解答率を上回っている。今後も学習内容の重要性について児童に伝えながら授業を実施したい。

●「国語の勉強は好きですか」と「算数の勉強は好きですか」の質問を比較すると否定的な回答をした児童の割合が、国語は39.4%、算数が21.3%と、国語が算数を18.1ポイント上回っている。算数の学習よりも国語の学習へ意欲が低い傾向が見られるので、読解問題などを丁寧に指導し、苦手意識をなくすように支援していきたい。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年 児童質問紙

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実にを行うための工夫	- 既習事項や学習の内容からめあてを児童と一緒に考え課題意識をもって取り組ませるようにしている。 - 振り返りを行う時間を設定し、学んだことを自分で確認できるようにしている。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問では、肯定的回答をした児童が、85.2%と全国の平均78.2%を7ポイント上回っている。
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	- 国語を中心にした各教科で、自分の考えを書いたり発表し合ったりする活動を取り入れている。 - 話し合いにおいて形態を工夫するとともに、発達段階に応じた聞き方・話し方のスキルを身に付けさせるよう指導している。	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問では、肯定的回答をした児童が、80.4%と全国の平均70.1%を10.3ポイント上回っている。 「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて考えをしっかりと伝えていましたか」の設問では、肯定的回答をした児童が、83.6%で全国の平均82.6%と1ポイント上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	- 学年内で宿題の量や家庭学習のやり方について共通理解を図る。学級活動で家庭学習・自主学習のやり方を指導している。 - 家庭学習の強調週間を設け、保護者が確認できる機会を設けている。	「家で自分の計画を立てて勉強していますか」の設問では、肯定的回答をした児童が82%で全国の平均74%を8ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えや理由、解き方などを記述する問題で全国平均を下回るものが多く、また、無回答の割合が高い回答が見られた。	それぞれの児童が自分の考えをもち、互いに表現する活動の充実	各教科の授業において、どの児童も考えがもてるようにする発問や作業用紙を工夫する。また、意見の発表、順序や理由の説明など、場面に応じた記述をする機会を設定し、考えを表現するスキルを身に付ける活動を取り入れる。